

神戸市にて、市民を対象とした LINE 公式アカウント「SIP-KOBE 実証訓練」を開設 実災害時における運用を実証訓練としてスタート 市民からの情報提供を活用し、災害対応の判断の一助に

AI 防災協議会(理事長:江口 清貴)は、神戸市にて、「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』」*(以下「SOCDA」という)を実装した LINE 公式アカウント「SIP-KOBE 実証実験」を、市民を対象に開設し、実災害時での運用を実証訓練として開始いたしますのでお知らせいたします。



<LINE 公式アカウント SIP-KOBE 実証実験>



<マッピング画面>

AI 防災協議会は、AIをはじめとする先端技術、SNS その他 IT インフラを活用することによって、災害に対するレジリエンスを向上させ、防災・減災に係る課題解決を目指すことを目的としています。その一環として、自治体会員として参画している神戸市と共同で、8月4日よりSOCDAの実証実験に取り組んでいます。

(AI 防災協議会 神戸市でのSOCDA実証実験に関するプレスリリース: https://caidr.jp/data/SOCDA_190725.pdf)

SOCDAについては、まず神戸市が運営する消防団員を対象としたLINE公式アカウント「神戸市消防団」で活用方法を検討してまいりましたが、より多様なニーズの掘り起こしと効果検証を行うことを目的に、この度、AI 防災協議会として市民を対象としたアカウント「SIP-KOBE 実証訓練」を開設し、市民からの情報収集及び、その情報の活用について検討してまいります。

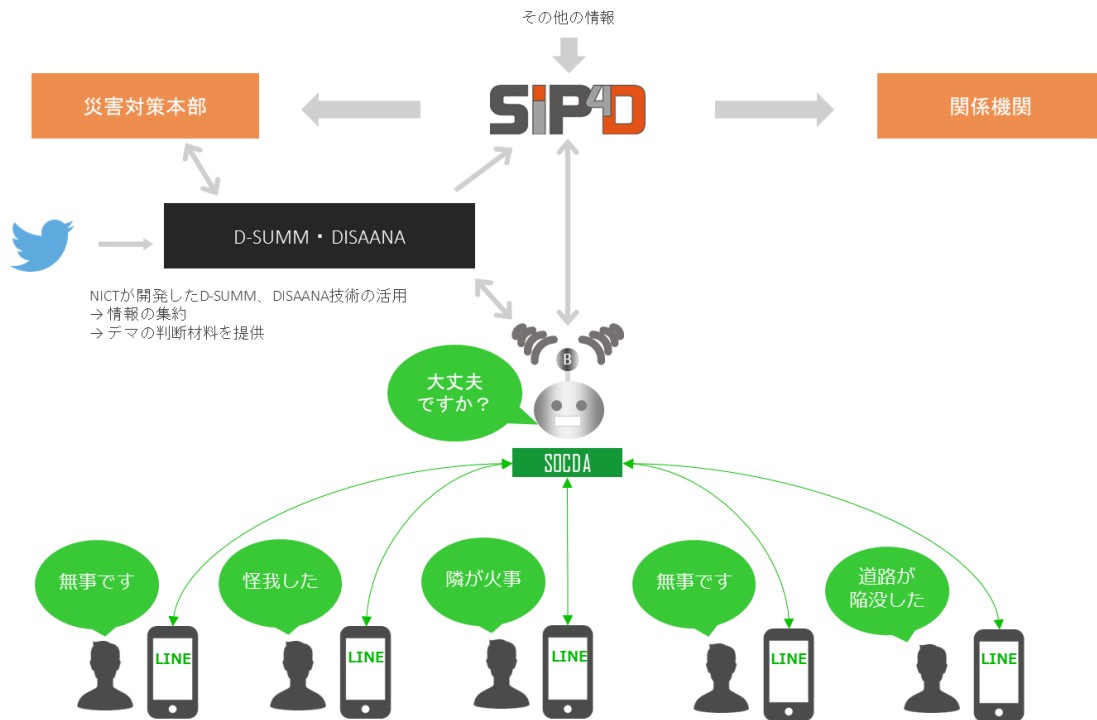
本アカウントを通して、実災害時に市民が被災現場に関する情報を送信し、AIがそれらの災害情報を整理、集約して地図上に表示されることで、市民が把握している災害情報がリアルタイムで共有されます。この情報は神戸市に提供され、災害対策本部等がこれらの情報を災害対応の判断の一助とする等の活用方法について検討します。

また、これらの情報は本アカウントに登録している市民自らも閲覧することができ、避難行動の支援に役立てていただくなど、この取り組みを通して、自助・共助としての活用も検討してまいります。

AI 防災協議会は、「LINE 版防災チャットボット『SOCDA』」について、今後も実災害時での稼働・効果検証を行い、ブラッシュアップを重ねていくとともに、AIをはじめとする先端技術等を活用することにより、防災・減災にかかる課題解決を目指して参ります。

<参考>

※「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』」イメージ図



SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOcial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社ウェザーニューズが、LINE 株式会社の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。

【本件に関するお問合せ先】

AI 防災協議会

E-mail : info@caidr.jp

HP : <https://caidr.jp/>